

新型コロナウイルス感染拡大防止による公演、映画・映像収録、教育・指導の中止

文化芸術の灯を消さないために 緊急・事業継続支援策の実施を



**BIG WAVE
FOR ARTS**

文化芸術推進フォーラム

2020年5月

イベント自粛要請そして非常事態宣言、支援なくして継続不能

- ◎ 2月末の文化イベント自粛要請と緊急事態宣言による大きな影響
 - ・3月19日時点で5000公演の中止、キャンセル、国民は多くの鑑賞機会を失う
 - ・公演・イベントの中止、芸術教室の閉鎖、映画・映像の収録、美術の展示も中止へ
 - ・4月の緊急事態宣言は5月末までの延長され、7月公演等の見通しも立たず
 - ・5か月を超える仕事喪失は、実演家、スタッフ、芸術団体・事業者に致命的な打撃

- ◎ 芸術団体、事業者への影響
 - 公演等中止による突然の入場料収入等の消失
 - 稽古、舞台づくり、宣伝費など準備が無に、二重の損失
 - 参加している実演家、スタッフへの報酬支払が不能に

- ◎ フリーランスの俳優、音楽家、舞踊家、演芸家、スタッフへの影響
 - 仕事と収入が奪われ、3月、4月には多くが収入0に
 - 5月以降の仕事の依頼も来ない状況がつづく

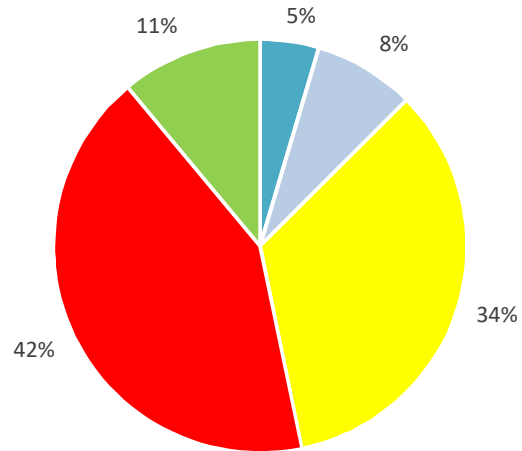
この状況は、芸術団体・事業者、実演芸術、映画、美術にかかわる専門人材の廃業の危機、文化芸術の消失になりかねない

芸術団体、実演家・スタッフへの持続化給付金では不十分

- ◎ 公演等の中止による収入喪失は文化芸術界にとって膨大
 - ・イベント自粛直後の3月時点での損失規模は522億円
 - ポップス、クラシック、演劇、ミュージカル、児童青少年演劇、歌舞伎、能楽、落語などの公演
 - ・エンターテインメント白書2019によると年間市場規模は約6000億円
 - ・5か月の損失規模は推計は現時点で2000億円、さらに拡大
- ◎ これだけの期間に及ぶ公演等の中止は芸術の質、職能の維持、生活の継続面で大きな影響
 - ・実演芸術は、表現の場があり、そのための身体訓練と維持あつての質を向上
 - ・表現の場があつてモチベーションが向上し、職能継続の意思
 - ・表現の場からの収入で職能継続の基礎となる生活の糧を得ている
- ◎ 文化芸術への影響実態、仕事の特徴に見合った事業継続支援が必要
 - ・実演芸術の専門能力を有する人材の職能維持、意欲向上を図り、芸術団体・事業者の組織崩壊を防ぎ、次なる創造に向けて活動を継続する経営資源を確保
- ◎ 実演芸術は、緊急事態宣言の解除後も「新しい生活様式」の中で、人が集まる公演等の再開は、分野ごとに異なるがかなりの遅れが想定され、準備にも時間が必要、すぐの開催は困難、また再開しても採算は望めない

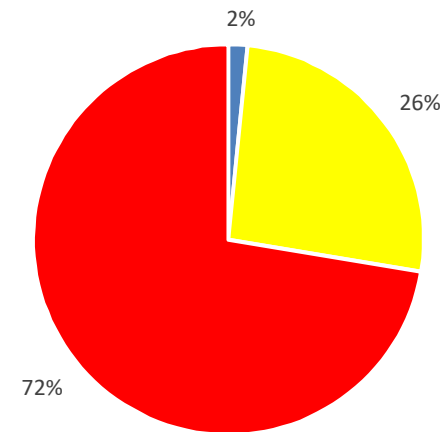
フリーランス実演家、激変した収入と仕事

4月の収入予想は



■①変わらない ■②75%ぐらい ■③50%以下 ■④無収入 ■⑤わからない

新たな仕事は入っているか



■①増えている ■②減っている ■③まったくない

- ・76%の実演家が50%以上の収入減。今後の仕事は72%が全くない
- ・俳優、音楽家、舞踊家、落語家の緊急アンケート(4月14日から19日までに寄せられた2,905名分の回答に基づく結果)

文化芸術の灯を消すことなく、再開に向けて

◎ 文化芸術専門人材の職能継続支援

2月から7月にかけて仕事を失い、収入が50%以上減少した下記の者に対し、個人事業主の「持続化給付金」では賄えない長い休業を乗り切る職能継続の支援を

- ・公演や映像、メディア収録への出演・稽古、教室での指導を専門職能とする実演家
- ・公演や映像、メディア制作の脚本、音楽の創作、演出、監督、照明、音響、舞台、制作スタッフ
- ・上記活動を年間の主な活動とし、雇用されていない者（フリーランス）

◎ 芸術団体・事業者の事業継続支援

2月から7月にかけて公演中止、映像等収録の中止などにより収入が50%以上失われた下記芸術団体・事業者に対し、この難局を乗り越え再開までつなぐ事業継続の支援を

- ・公演や映像、メディア制作を行う専門実演家団体、実演家を擁するプロダクション、企画制作団体
- ・実演家、スタッフが参加する協会組織
- ・公演や映像、メディア制作の美術、照明、音響、舞台、制作関係のスタッフ会社

◎ 文化芸術振興議員連盟が提案する「文化芸術復興基金」の早期創設を